

○猿沢池

■課題

水質悪化により年間を通じて茶色い濁りや白い浮遊物(微生物由来)が発生し景観上問題

■対策

奈良国立博物館修景池からの導水施設を整備し、流入水量増加により水質改善を図る(①、②)

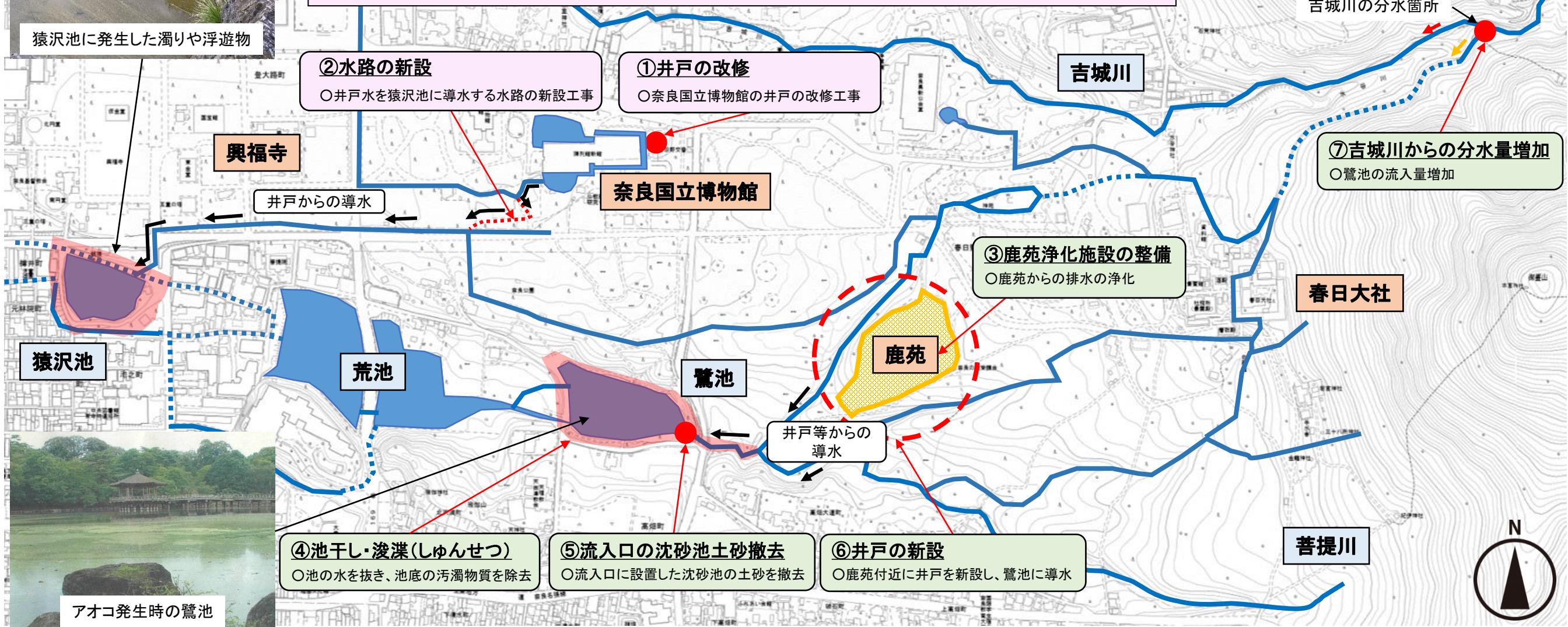
現状の全窒素: 1.7mg/L(2021/10/13測定) 【目標の全窒素: 1.0mg/L】
(環境基準値V【環境保全】)



吉城川の分水箇所



猿沢池に発生した濁りや浮遊物



アオコ発生時の鷺池

○鷺池

■課題

水質悪化により、主に夏場においてアオコ(緑色)や悪臭が発生して景観や水環境上問題

■対策

- 鹿苑からの汚濁物質の流出を抑制する(③)
- 池干しと同時に、池底に堆積している汚濁物質を除去する(④、⑤)
- 流入水量を増加させることにより水を循環させる(⑥、⑦)

現状の全窒素: 1.2mg/L(2021/8/6測定) 【目標の全窒素: 1.0mg/L】
現状の全リン: 0.28mg/L(2021/8/6測定) 【目標の全リン: 0.1mg/L】
(環境基準値V【環境保全】)

※対策を行いながら各池の水質を継続的に調査して効果の検証を行い、必要に応じて追加対策を検討します

猿沢池の導水の実証実験

令和5年春に予定している猿沢池への導水に先がけて、**令和4年9月中旬から11月中旬にかけて導水の実証実験を実施**します

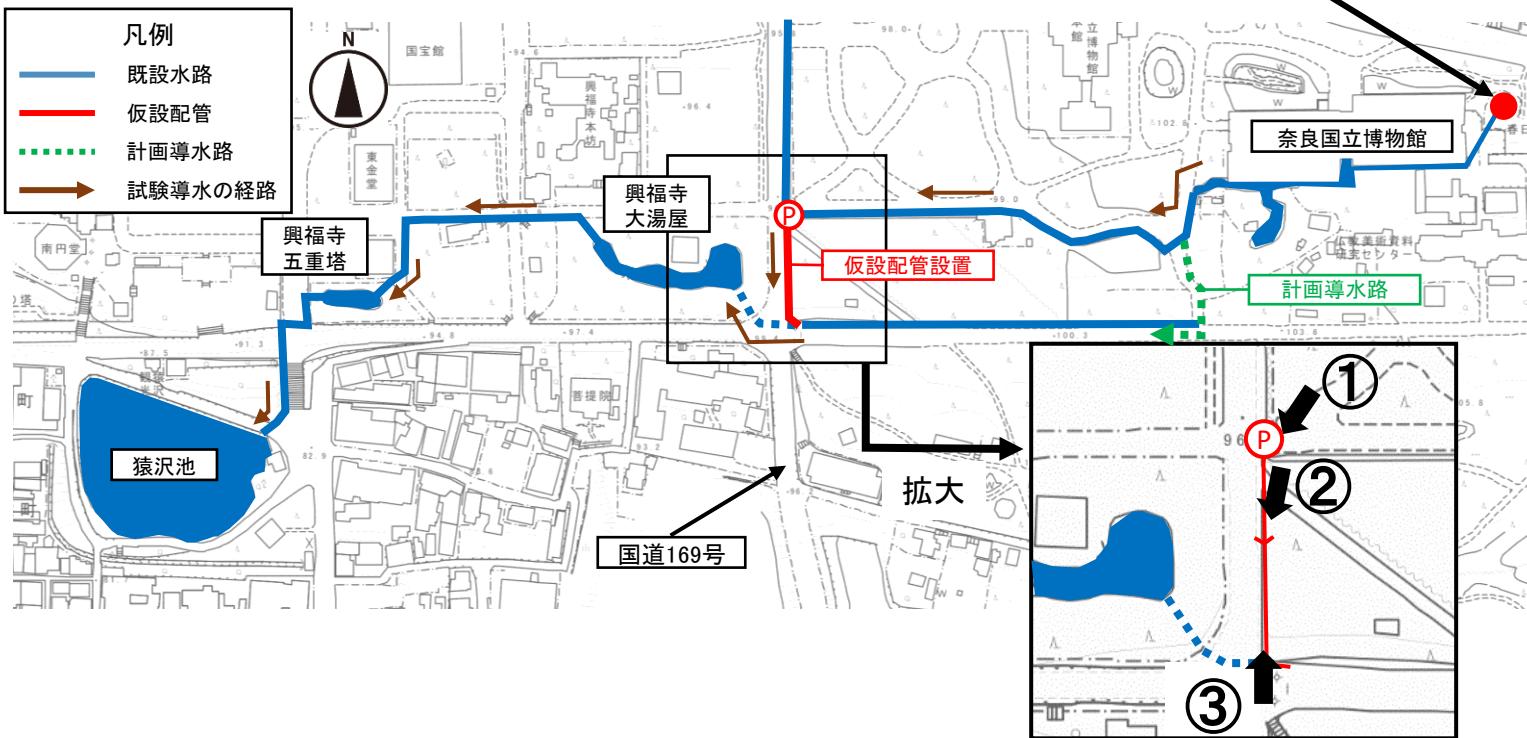
○実証実験の目的

- ・導水量に応じた猿沢池の水質の改善状況の検証(令和5年春からの運営に反映)
- ・既存水路、既存管渠の流下能力の検証
- ・興福寺の池の水質、池底の堆積物が水質に及ぼす影響の検証

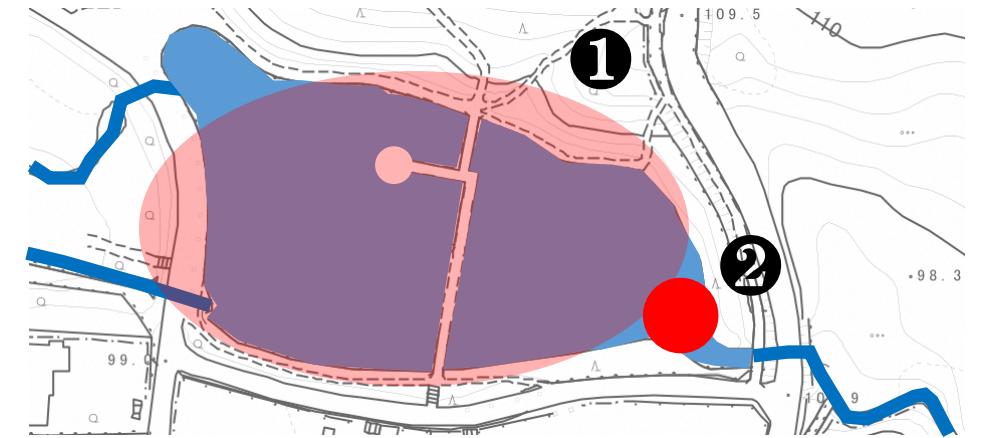
○概要

- ・期間: 令和4年9月中旬～11月中旬
- ・最大導水量: 2L/秒
- ・水質調査: 1ヶ月に2回、全窒素と透視度の調査を実施

○実証実験の経路



鷺池の土砂等の除去



① 池干し・浚渫

- ・令和4年度冬場実施予定
- ・現状の堆積土砂量 約5,000m³ (堆積土砂の深さ 約70cm)
(令和3年度の池干し(R4.2月実施)により測量済み)



令和4年2月 池干しの様子

② 流入口の沈砂池土砂撤去

- ・令和4年度冬場実施予定
- ・現状の堆積土砂量 約160m³
(令和3年度の池干し(R4.2月実施)により測量済み)

